

8月の主な行事

1日 : 水の日	13日 : 左利きの日
6日 : 広島平和記念日	15日 : 終戦記念日
7日 : 立秋	26日 : レインボーブリッジの日
9日 : 長崎原爆の日	29日 : 焼肉の日
	31日 : 野菜の日



今年から、8月11日は国民の祝日「山の日」

「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第43号）」が2016年1月1日から施行され、新たな「国民の祝日」として8月11日が「山の日」と定められました。



当初は8月12日で進められていたのですが、「日本航空123便墜落事故」が起きた日であることを配慮し、お盆休みと連続させやすいメリットがある8月11日に制定した経緯があります。「山の日」は、1996年に設けられた「海の日」以来20年ぶりの祝日の新設となります。

日本は、国土の7割近くを山地で占める山の国です。日本人は古くから山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、自然とともに生きてきました。こうした背景から、山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことを銘記する日として、「山の日」が導入されました。

国民の祝日は祝日法で規定しており、法改正で4月29日を「昭和の日」に、5月4日を「みどりの日」にそれぞれ定めた2005年以来、今回の制定で年間祝日数は計16日になりました。「山の日」は8月としては初めての祝日であり、これによって祝日がない月が6月のみとなりました。お盆休みに合わせて連休を取りやすい日取りになっており、山岳への旅行などによる経済効果も期待されています。



「山の日」制定に先立って、アウトドア用品で有名なmont bell(モンベル)では、7~8月にかけて全国各地で山遊びイベントを開催しています。初心者から上級者向けまで対応したプランがあり、トレッキングやラフティング、カヌー、シャワークライミング等が楽しめる機会があります！また、環境省では、山に関する全国イベントを紹介しています。

この夏、「山の日」をきっかけに、山に親しむ機会を得るとともに、山との深いかわりについて考えてみませんか？

★参考HP
『山にだけよう 山に親しみ、山の恩恵に感謝。- 環境省』
『モンベル | イベント・ツアー | 「山の日」制定記念』



安全運転アドバイス

交差点編

交差点は、車や人が複雑に交錯し、最も事故が起こりやすい場所です。そこで、交差点を安全に走行するためのポイントをまとめてみました。

信号機のない交差点

見通しの悪い交差点では一時停止か徐行を

「止まれ」や「徐行」の標識がある交差点ではもちろんのこと、そうでない交差点でも、万が一に備えて一時停止か徐行をして、左右の安全確認をしましょう。

交差点のミラーに頼らない

ミラーでは相手との距離感がつかみにくいうえに、自転車や歩行者を見落としやすいので、ミラーだけに頼らず、必ず自分の目で直接左右の状況を確認しましょう。右図のA車から交差点の左右を見た場合、右側の乗用車(B車)のみに注意が向き、左側の自転車(C車)を見落としやすいので、注意してください。



対向車の通過直後が危ない

対向車の通過直後に右側から、歩行者や自転車が飛び出してくることがよくありますが、対向車の陰に隠れて発見が難しいので注意してください。

住宅街の小さな交差点を見落とさない

住宅街には、小さな交差点やT字路がたくさんあります。路面の「+」や「T」の標示に注意し、見落とさないようにしましょう。

見通しのよい交差点でも油断は禁物

見通しのよい交差点でも、よく出合頭の事故が起こります。たとえ自分のほうが優先であっても「相手が止まらないかもしれない」と考えて、手前で減速し、相手の車の動きを確かめることが大切です。



左折時：右折時

① 横断歩行者の間をすり抜けない

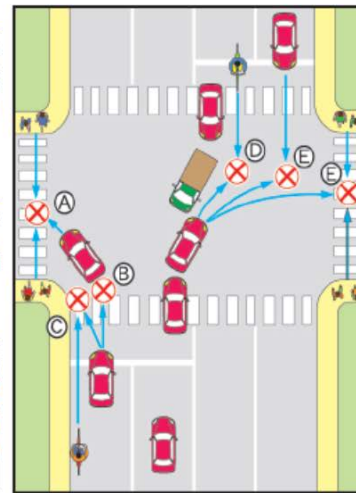
横断歩行者の切れ目をぬって強引に左折していくと、歩行者が突然走り出したときなどは大変危険です。横断歩行者がいるときは手前で停止し、通過を待ちましょう。

② 先行左折車の急停止に注意

先行左折車が横断歩行者のために急停車することがあります。左折時はいつでも止まれるくらいの速度に落とし、先行左折車の動きに注意しましょう。

③ 早目の合図と左後方の二輪車確認

左折の合図を早目に出し、後続車に左折の意図を確実に伝えるとともに、サイドミラーなどで、左後方から二輪車が接近していないかどうかを必ず確認してください。



④ 直進二輪車を見落とさない

二輪車は四輪車に比べて小さいため見落としがちです。特に対向右折車がいるときは、その陰に隠れて二輪車が見えにくいことがありますので、要注意です。

⑤ あせった右折は禁物

対向車が接近しているにもかかわらずあせって右折をすると、対向車と衝突したり、横断歩行者を見落とすおそれがあります。右折時は無理をせず、「待ち」の姿勢を徹しましょう。

道を譲られたときも対向車の陰に注意

対向車に道を譲られたとき、一気に右折すると対向車の陰から出てきた二輪車と衝突してしまうことがあります。道を譲られたときも、対向車の陰の安全確認を忘れずにしましょう。

